

環境に係る情報協議会

国営かんがい排水事業 新鷓川地区(第1回計画変更)

1. 環境に対する考え方

《農村環境の現状と課題》（「むかわ町田園環境整備マスタープラン」より）

【現状】

主流の鷓川は、占冠村のトマム岳に源を発し、支流を合わせながら穂別地区で穂別川と合流し、鷓川地区で太平洋に流れる総延長135km、流域面積1,270km²の一級河川である。流れは比較的穏やかで、その豊かな水は主に農業用水として活用され、特に下流の平野部は道内指おりの稲作地帯として発展した。

築堤護岸、河川改修工事等の整備が進んでおり、近年は流域町村が連携し、水質浄化のための施策と生態系にやさしい親水性豊かな河川改修が進められている。

【課題】

鷓川地区を貫流する一級河川の鷓川水系は、恵みと豊かな母なる川として流域の歴史と文化を生み、地域の生活基盤を支えているという基本理念に基づき、親水機能・景観性の整備促進、自然生態系や自然浄化力の維持に配慮した整備を目指す必要がある。

《環境保全の基本的考え方》（「むかわ町田園環境整備マスタープラン」より）

用排水路等農業用施設の整備の際には、動植物の生息空間としての環境に配慮した工法を採用するなど、親水機能や自然環境の維持に配慮するとともに、景観に配慮するよう努める。

2. 環境配慮方針

《基本方針》

本地区で整備する排水路には多種多様な動植物が生息・生育し、排水本川と連続した水辺環境ネットワークが形成されている。また、地域の田園環境整備マスタープランでは、本地区で整備する排水路の隣接区域において「近自然工法の検討」が謳われており、これに準じた対応が求められる。

河川流域に広がる農地は周囲の山々と一体となり、自然豊かな農村景観を形成しているとともに、人々の憩いの場や自然環境とのふれあいの場になっている。

このため、工事の際には、多様な動植物が生息・生育する排水路及び鷓川への影響を軽減・除去するとともに、自然豊かな農村景観との調和に配慮する。

《取組内容》

(1) 生態系への配慮

① 水辺の動植物に配慮した排水路整備

- 排水路護岸は、現況と同様に二面張の護岸ブロック構造により砂泥底、礫質底を確保するほか、法面には自然繊維シートを布設し、在来植生の早期回復を図る。

② 工事中の濁水流出防止

- 工事区間は土のう等により締め切りを行うとともに、締め切り内の排水に対し濁水処理施設を設置し下流側に濁水が流下しないようにする。
- 頭首工のゲート等の補修にあたり、古い塗装を除去する際に発生する粉塵が河川に混入しないように外囲いを設置する。
- 河川内で行う工事は、シヤマモ遡上期の11～12月を避けるとともに、施工に際して漁業者と協議を行う。

(2) 景観への配慮

① 地域景観との調和に配慮した頭首工の色彩

- 頭首工のゲート、機械類について周辺景観と調和が図られるような色彩を採用する。

※計画変更に伴い、幹線用水路の改修区間の追加が計画されるが、施工による周辺環境への影響の内容・程度を踏まえれば、当初計画において設定した上記取組を行うことにより、環境に配慮される。